

《女川原子力発電所2号機における安全対策工事完了時期の見直しについて》 「2022年度の工事完了」を目指してまいります

当社は、女川2号機の安全対策工事について、これまで2020年度の工事完了を目指してきましたが、2月26日に原子炉設置変更許可をいただいたことを受け、安全対策工事の全体工程をより詳細に見通せる状況となったことから、あらためて工事の完了時期について評価しました。

その結果、新規制基準適合性審査の過程で追加・変更が必要となった安全対策工事などが工程に与える影響を考慮し、「2022年度の工事完了」を目指して工事を進めていくこととしました。

当社といたしましては、今後とも、新規制基準への適合に満足することなく、原子力発電所のさらなる安全レベルの向上に向けた取り組みを着実に進めていくとともに、地域の皆さまからご理解をいただきながら、準備が整った段階での再稼働を目指してまいります。

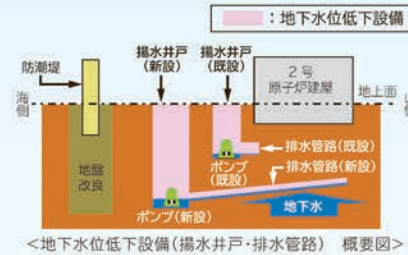
安全対策工事完了時期の見直しの概要

- ◆ 審査の過程で追加・変更となった「①地下水位低下設備の信頼性向上対策」や「②竜巻防護ネットの設置工事」と、従来から計画していた「③防潮壁の設置工事」について、非常に狭い2号機海水ポンプエリアで実施する必要があります。
- ◆ これらの工事は、作業エリアに加え、重機や資機材の設置・保管エリアなどが重なり、すべての工事を同時に進めていくことが非常に難しい状況であることから、安全の確保を大前提に工程の調整を行った結果、工事完了時期を見直すこととしました。

【追加・変更が必要となった工事の例】

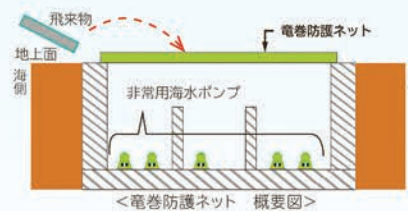
①地下水位低下設備の信頼性向上対策(追加)

- 防潮堤下部の地盤改良により、海側へ流れる地下水が遮断された状態となり、敷地内の地下水位が上昇し、原子炉建屋などの周辺地盤に影響を与えるおそれがあります。
- このため、地下水を汲み上げて排水する既設の地下水位低下設備の耐震性を確保するとともに、設備を追加設置することにより、当該設備の信頼性向上を図ります。



②竜巻防護ネットの設置工事(変更)

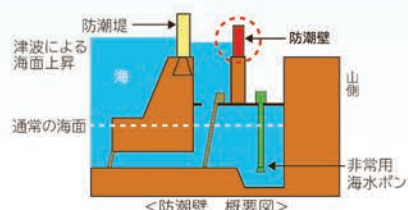
- 従来より、原子炉などを間接的に冷却するための非常用海水ポンプが竜巻による飛来物で損傷しないように、当該ポンプ室の上部に竜巻防護ネットを設置する予定でした。
- 審査における竜巻防護ネットに対する飛来物の衝突影響の評価を踏まえて、支持部に採用する部材の仕様を変更し強度向上を図ります。



【上記工事と作業エリアが重なる工事の例】

③防潮壁の設置工事(従来から計画)

- 津波による海面の上昇により、海とつながっている開口部から敷地に海水が溢れ出るのを防止するために、防潮壁を設置します。



【2号機海水ポンプエリアでの作業】

作業予定エリア(イメージ) * 右図赤枠の拡大図



作業予定エリア(イメージ)凡例

- 地下水位低下設備 作業予定エリア (Pink area)
- 竜巻防護ネット 作業予定エリア (Green area)
- 防潮壁 作業予定エリア (Blue area)
- 地下水位低下設備 (揚水井戸・ポンプ) (P icon)
- 竜巻防護ネット (Green grid icon)
- 防潮壁 (Blue line icon)

《女川町、石巻市へ住民避難用の福祉車両を配備しました》

当社は、万が一、女川原子力発電所で重大事故が発生した際に、女川町、石巻市のPAZ※1ならびに準PAZ※2にお住まいの要支援者等の避難に使用していただく福祉車両を計11台配備しました。

今後、石巻市への支援用として、さらに3台を配備していくこととしています。

福祉車両は、ワゴンやワンボックスタイプで、車椅子やストレッチャー(自立歩行や車椅子での移動が困難な方に用いられる器具)を載せることができます。

このほか、当社は、緊急時モニタリングや避難退域時検査の要員派遣、放射線防護資機材の提供、PAZ・準PAZが孤立した場合のヘリコプターによる避難や生活物資の支援についても行うこととしています。

当社といたしましては、引き続き、地域の皆さまの安心につながるよう、各自治体が策定している避難計画の実効性向上に協力してまいります。

福祉車両の概要

支援先	配備箇所	台数
女川町	女川町役場	5台
石巻市	社会福祉法人旭壽会おしか せいしんえん 清心苑(鮎川浜)	3台
	あみしょう 網小医院(網地島)	1台
	当社にて保管	2台

※1 原子力発電所から概ね5km圏内の区域。重大事故が発生した場合、放射性物質が放出される前に予防的に避難したり、避難により健康リスクが高まる方については、屋内退避施設に避難することとされている。

※2 原子力発電所から概ね30km圏内にある、PAZ以外の離島、牡鹿半島地域。重大事故が発生した場合、PAZに準じた防護措置を行うこととされている。



女川町へ配備した福祉車両



おしか清心苑へ配備した福祉車両

女川原子力PRセンターからのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、当面の間、当館を「臨時休館」としております。

また、例年6月に開催している「ローズガーデンフェア」についても中止することといたしました。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

再開時期などの最新情報につきましてはこちらよりご覧いただけます。



《交通安全活動を実施しました》

4月8日、当発電所および構内協力企業では、春の全国交通安全運動に合わせ、安全運転意識の向上を目的に交通安全活動を行いました。

当日は帰宅の時間帯に合わせ、発電所周辺の道路にて交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼び掛けました。



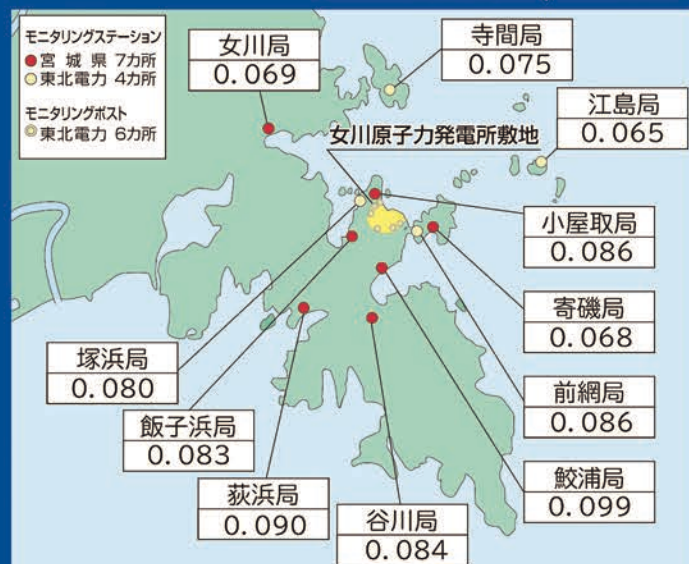
のぼり旗を掲げて交通安全を呼び掛ける発電所員および構内協力企業社員

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.047マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(4/30現在)



単位:マイクロシーベルト/時

(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	最小値	最大値
2011年3月11日	0.027	0.064
〈地震発生後最大値〉		
2011年3月13日	1.8	21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉		
2012年4月1日	0.063	0.098
2013年4月1日	0.055	0.076
2018年4月1日	0.037	0.048
2019年4月1日	0.036	0.051
2020年4月1日	0.034	0.055
2020年4月30日	0.035	0.047

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。